より発展的に学習できるよう留意すること。

(2) 内容の取扱いに当たっては，次の事項に配慮するものとする。

ア　内容のA，B，C，D及びEについては，この順序で取り扱うものとし，A，B，C及びD並びにEの(1)から(3)までの学習をすることにより，Eの(4)の学習が充実するように年間指導計画を作成すること。また，「歴史総合」で学習した歴史の学び方を活用すること。

イ　内容のAについては，この科目の導入としての位置付けを踏まえ，生徒が現在と異なる過去や現在につながる過去に触れ，世界史学習の意味や意義に気付くようにすること。

(1)については，地球，生命，人類の誕生などの歴史は，それぞれ異なる時間の尺度をもっていることに触れること。

(2)については，日常生活に見る世界の歴史に関わる具体的な事例を取り上げ，世界史学習への興味・関心をもたせるよう指導を工夫すること。

ウ　内容のBについては，自然環境と人類との活動の関わりの中で，歴史的に形成された諸地域の生活，社会，文化，宗教の多様性に気付くようにすること。また，遺物や碑文，歴史書，年表や地図などの資料から適切なものを取り上げること。

(1)については，生徒の学習意欲を喚起する具体的な事例を取り上げ，(2)及び(3)の学習内容への課題意識やそれらの学習への見通しをもたせるよう指導を工夫すること。また，観点を踏まえることで，諸地域の歴史的特質を構造的に捉えることができることに気付くようにすること。

(2)については，自然環境が人類の活動に与える影響や，人類が自然環境に積極的に働きかけた具体的な事例を取り上げ，自然環境と人類の活動との相互の関係を地理的視野から触れること。

(3)については，国家と宗教の関係や，文化や宗教が人々の暮らしに与えた影響，異なる宗教の共存に気付くようにすること。また，日本の動向も視野に入れて，日本と他のアジア諸国との比較や関係についても触れること。

エ　内容のCについては，諸地域の交流の広がりとともに再編が進む中で，地球規模で諸地域がつながり始めたことに気付くようにすること。また，日本の動向も視野に入れて，日本と他の国々との比較や関係についても触れること。なお，遺物や碑文，旅行記や歴史書，年表や地図などの資料から適切なものを取り上げること。

(1)については，生徒の学習意欲を喚起する具体的な事例を取り上げ，

(2)及び(3)の学習内容への課題意識やそれらの学習への見通しをもたせるよう指導を工夫すること。また，観点を踏まえることで，諸地域の交流・再編を構造的に捉えることができることに気付くようにすること。

(2)については，人，物産，情報などの具体的な事例を取り上げ，諸地域の交流が海域と内陸の交易ネットワークの形成により活性化したことに気付くようにすること。

(3)については，アジアとヨーロッパにおいて特色ある社会構成や文化をもつ諸国家が形成されたことに気付くようにすること。

オ　内容のDについては，諸地域の結合の進展とともに変容が進む中で，地球規模で諸地域のつながりが広まり始めたことに気付くようにすること。また，日本の動向も視野に入れて，日本と他の国々との比較や関係についても触れること。なお，公文書や手紙・日記，歴史書，芸術作品や風刺画，写真や映像，統計，年表や地図などの資料から適切なものを取り上げること。

(1)については，生徒の学習意欲を喚起する具体的な事例を取り上げ，(2)，(3)及び(4)の学習内容への課題意識やそれらの学習への見通しをもたせるよう指導を工夫すること。また，観点を踏まえることで，諸地域の結合・変容を構造的に捉えることができることに気付くようにすること。

(2)については，諸地域が政治的，経済的に緊密な関係を持ち始めた19世紀の世界の一体化の特徴に触れること。

(3)については，19世紀末に世界経済の構造が大きく変容し，第一次世界大戦を経てこれまでのヨーロッパ中心の国際秩序の見直しが図られたことに気付くようにすること。

(4)については，自由主義経済の危機により，資本主義諸国では国家による経済への関与が積極的に進められるようになり，そのことが，第二次世界大戦を経て，福祉国家体制の成立の契機となったことに気付くようにすること。また，第二次世界大戦を契機とした欧米諸国の覇権の推移に触れるとともに，Eとのつながりに留意すること。

カ　内容のEについては，この科目の学習全体を視野に入れた(4)の主題を探究する活動が充実するよう(1)，(2)及び(3)の主題を設定し，多元的な相互依存関係を深める現代世界の特質を考察できるよう指導を工夫すること。

(1)については，平和で民主的な世界を目指す多様な行動主体に気付くようにすること。